



ナイチンゲールの世界

第Ⅰ章 「換気と保温」

今回は汚れた空気についてです。

汚れた空気とは何か 空気を汚さないために
“汚れた空気” って???

ナイチンゲールの記述から考えられることは



①酸素量が少なく、炭酸ガス量が増えている空気

乾燥している空気において、酸素の占める割合はおよそ21%です。それ以下の酸素量になると人間は正常な呼吸ができなくなります。現代では環境基準を大幅に超える大気汚染物質の存在がありますが、それらも汚れた空気を形成します。

②室内の微生物や、部屋のほこりや汚れから発生する有機物によって汚れた空気

ナイチンゲールは、「室内にあって臭気を放つものはすべて、それら臭気を患者が吸う空気の中に発散させている」と言っています。室内で乾かそうとする洗濯物なども汚染源になるということです。

③人間自身が発生させる汚れによって汚染された空気

「空気」や「便」がその汚染源に相当しますが、これらが最も重要で深刻な「汚れ」に当たります。呼吸や便はそれ自体が排泄物ですから、身体が不要なものとして考えます。看護する際には注意すべき“空気の汚れ”とは、外界の空気のみではなく、患者自身や室内で発生させる諸々の事象も指しているということです。

人体からの排泄物やほこり、湿気などは空気を汚す原因となります。汚染された空気のなかで過ごしているとどうなるのでしょうか？

咳やのどの痛み、シックハウス症候群（頭痛や吐き気、湿疹、鼻水などの症状）が出現します。汚れた空気が人体に影響を及ぼすということ、再認識してみましよう！

種田美和

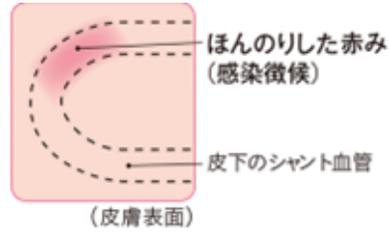
出典：金井一薫.ナイチンゲールの「看護覚え書き」イラスト・図解でよく分かる.株式会社西東社,2015年,p.34.





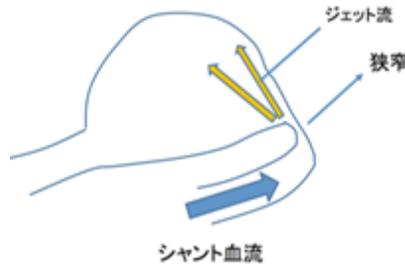
*シャント感染

穿刺によって起こる可能性が高く、原因として穿刺するスタッフの不十分な手洗いや手袋の汚染、患者自身のシャント肢の保清の不十分さがあげられます。穿刺部位の周囲の皮膚に発赤・腫脹・疼痛があったら要注意です。



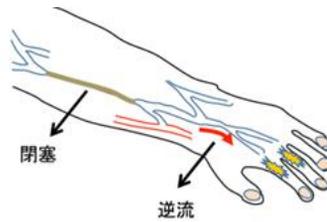
*シャント瘤

動脈の血液が静脈に流れ込むことで静脈の血管壁の一部がふくらみ、瘤を形成します。瘤のできやすい部位には吻合部付近、狭窄部位の前後、同一部位への穿刺によるものがあります。瘤の大きさ、内腔に注意して観察することが大切です。



*ソアサム症候群

シャント作製により中枢側に流入するはずの血液が末梢側に流入し、うっ血をおこして拇指を中心として手全体が腫脹することです。



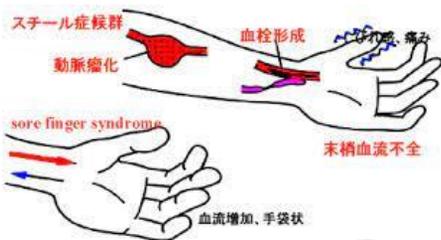
*静脈高血圧

シャントより中枢側の血管が狭窄・閉塞をおこして側副血行路を形成し、シャント肢がうっ血・腫脹することです。



*スチール症候群

シャント作製により、吻合部から動脈血流が静脈に多く流入することで末梢へ流れるはずの動脈血流が障害されることです。



竹下佳代



編集後記



今回のナイチンゲールの世界では、「汚れた空気」がテーマでした。「汚れた空気」の中にいる自分を想像するだけでぞっとしますよね。患者さんも同じですね。患者さんの気持ちに寄り添い、「綺麗な空気」の部屋でいられるように気を使っていきたいですね。また、竹下主任のシャントの異常についてはいろいろな症例を画像と共に紹介してくれました。その中でも、シャント感染や瘤は、皆さんも経験があるのではないのでしょうか？是非日頃のシャント管理に活かしてくださいね。 児玉君子